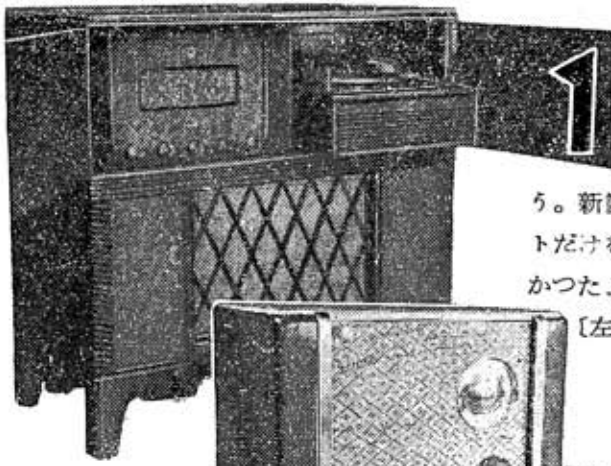


1951年の愛

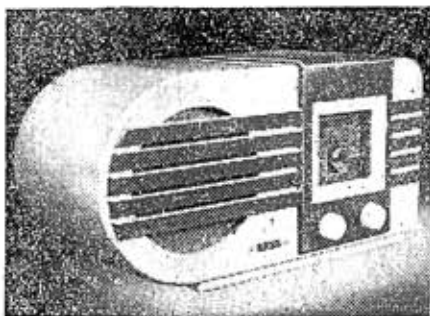


〔上〕日本ビクターの
ARE-52型

1950年一年間のラジオ受信機の発展の状況は、技術的にも性能の点からも頭打ちの状態であつたといえます。といつても決して無線技術界全般にわたつて低調であつたというのではなく、電波法が施行されFM、超短波方面の研究は火に油を注いだように盛んになり、またテレビジョン電波も一年間に數回發射されたというように、むしろ近年になく活発になつたのでした。なぜ無線技術の進歩の中で、ラジオ受信機界だけが低調であつたかを考えてみる必要があります。そしてこれに對する嚴しい反省が、必ず今年のラジオ界發展の原動力となることでしょう。

まず第一にメーカーの新製品に對する情熱の稀薄なことがあげられるのではないのでしょうか？一様にメーカーが口をそろえて言うことは『金づまりで思うように研究もできない』ということです。しかし他の産業では毎月のように性能を向上させた新しい製品が紹介されているのに、この世界だけが足踏み状態なのはどうしたことでしょう。

メロダイン MS-50511C型

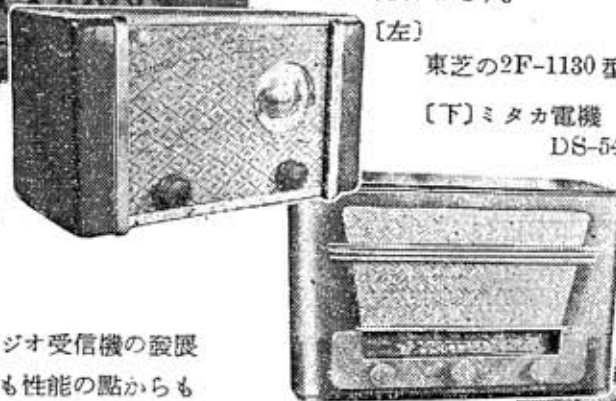


う。新製品と稱してキャビネットだけを新しくしたものが多かつたようです。

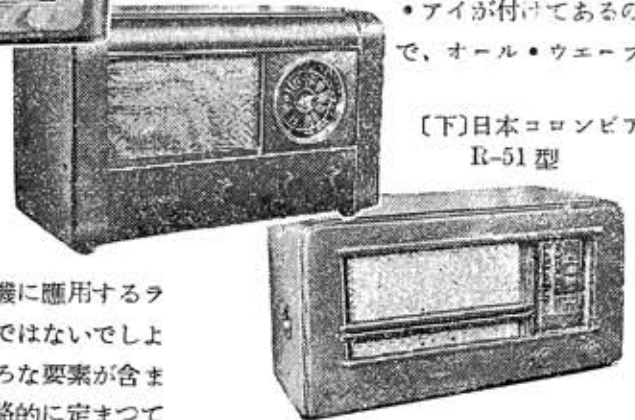
〔左〕

東芝の2F-1130型

〔下〕ミタカ電機
DS-54A型



〔右〕八咫無線の
5A-3B型



〔下〕日本コロムビア
R-51型

第二番目に考

えられることは、受信機に應用するラジオ回路の行きづまりではないでしょうか？これにはいろいろな要素が含まれております。まず回路的に定まつてしまつたこと。普及型が5球スーパーに定まつてしまい、これから一步も足をふみ出せないからです。しかしこの問題は、商業放送が間近に迫りこれらの分離が要求されてきておりますので、ある程度はいたし方ないとしても、問題はこの5球スーパーが普及型として最高であるかどうかというところにあります。コストを下げて、回路を變化させ簡単にしかも長もちするものと考えてゆく所に貴重な進歩があるのではないのでしょうか。

第三に考えられるのは價格の問題です。現在のような社會狀勢下に一合一万円前後の普及型セットでは不及型になりかねない現状です。ここにメーカーのジレンマがあるのでしょう。良品が安ければ賣れるのは理の當然で、どうしてコストを下げるか、そして性能の優秀なものを作り出すか？

このような昨年一年間の反省のもとに、次のようなことを年頭にあたり要望いたします。

まず、メーカーのハツタリを無くしてもらいたいこと。常に眞理にもとづいた宣傳、發表を行つていただきたいことです。空宣傳で製品を世に問うのではなく、その實力で製品を見せてもらいたいと思います。

日本ビクターの ARE-52 型電器、コンソール型の本機は高周波一段付オール・ウェーブです。出力段は 6V6 の PP ですから大きなホールでも充分に使えましょう。ラジオ部にはマジック・アイが付けてあるので、オール・ウェーブ

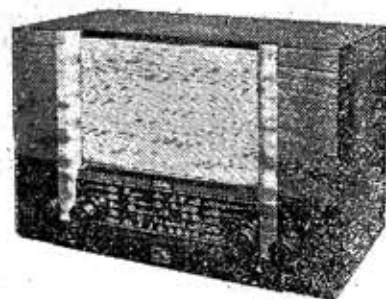
につきもの、同調のとりにくさになやむことはありません。スピーカーの兩脇にはレコードを入れるスペースも取つてあるアメリカばりのモダンな高級品です。

マツダ・ラジオの東芝で 2F-1130 型を發表しました。真空管は 6WC5-6D6-6ZDH3-42-12F の標準型です。本機は配線の簡素化をはかり故障の絶無を期しています。デザインもなかなかスマートで、ダイヤルは特徴のある丸型となつています。

東洋産業のメロダイン MS-50511C 型は獨創的なキャビネットの5球スーパーです。球は 42-80 と言いますからその前段は型のとおりです。エキゾチックなこの型は、あるいは日本間にはマッチしないかも知れないが、室の飾りと調和をとれば、なかなかスマートな感じがあらわせましょう。

アリア・ラジオで有名なミタカ電機では DS-54A を發賣。同社のセは感度のよいことで評判があり、

信機界展望



日本ビクター 6AW-1 型

インもちよつと變つて落付いています。これなら和・洋室どちらでも OK でしょう。ダイヤル面にはコロンビアと同じく主な放送局名が記入してあるのは、万人へのサービスでしょう。またポリウム抵抗のスイッチは二極双投式が使われていて、PHONO のインジケートが豆ランプで照明されるようになっていました。使用球は WC5-D 6-DH3A-42-12F の標準型です。

八歐無線の 5A-3B 型は前に発表されたスターリットを改良したもので 2 バンドです。ダイヤルは美しい丸型で受信バンドだけが照明されるようになっていているから、短波でも受信を誤るようなことはなく、落付いたデザインのキャビネットは和・洋室のいずれにもマッチすると思われます。使用球は 42-80 のほかは前者と變りません。

日本コロンビアでは R-51 型という

6 球スーパーは 76 を使つたセパレート發振で、セットの安定度を増しております。出力管は 42 ですから、まず音質は上々でしょう。ツマミの数が多過ぎるよりに感じますが、いかゞなものでしょう？

シルバー 50W-4 型スリー・ウェイは日新無線の製品です。1R5-1T4-1S5-3S4 のライン・アップは今ではこの種セットの常識でありましよう。AC はおきまりの電燈線 100 V から、乾電池では A 用として 3 V を 3S4 にはそのまま、1S5 と 1R5 は直列に、1T4 には抵抗をシリーズに入れて點火し、B は積層 67.5 V です。

再び日本ビクターのセット 2 台をお知らせしましょう。6AW-1 型は同社獨特のバンド・スプレッド付きです。BC バンドは 530-1,605 kc, ショート・バンドは 4-22 Mc でスプレッドは充分に利くそうです。バンド・スプレッド付きでは以前 5AW 型が發賣されていましたが、6AW 型は高周波一段が付いているので遠距離受信も OK という次第だそうです。

またスーパー・ニッパ PRE-1 型は、さ

【下】シルバー 50W-4 型



〔上〕パール R-106 型

〔右〕トビック・ラジオ

新型を發表しました。デザインは横長の落つ

いたもので、ダイヤルが縦型になっているのは變化に富んでおもしろい感じます。キャビネットは木目をそのまま現わした優雅な感じで、音質はこの社のマークにかけても絶對優秀とのことです。

トビック・ラジオ研究所で發表した 6ZP1-12F の 5 球スーパーは、クリーム色に塗つた卓上型のキャビネットです。お値段は 6,950 円というから、まず日本では安い方でしょう。

日本ラジオ工業のパール R-106 型

〔右〕中島無線の P-103B 型

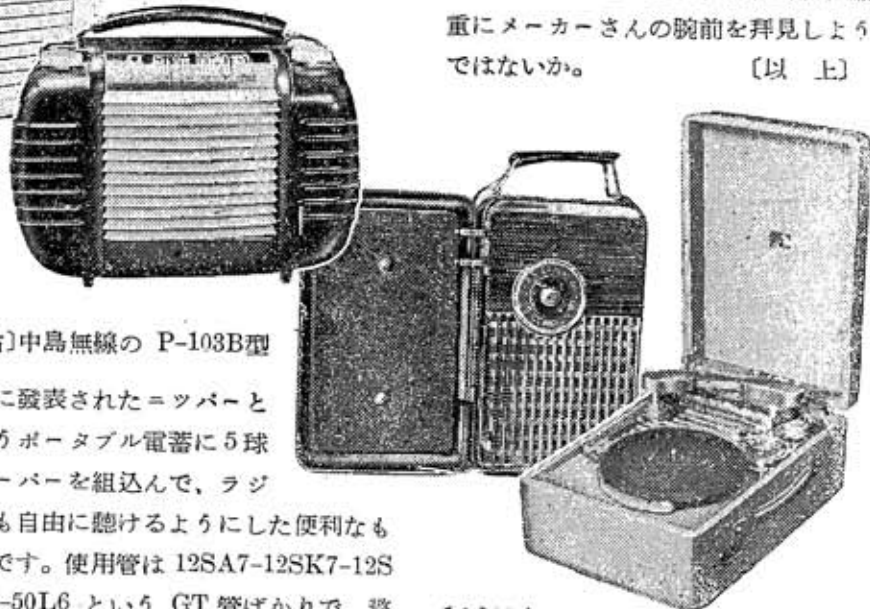
きに發表されたニッパというポータブル電蓄に 5 球スーパーを組込んで、ラジオも自由に聴けるようにした便利なものです。使用管は 12SA7-12SK7-12SQ7-50L6 という GT 管ばかりで、發流はセレンを使つています。PU をレ

コード演奏にすれば自動的にラジオから PU に切替わる點、またオート・ストップも付いている點、このように小型であるにもかかわらず、なかなかよくできております。値段は 15,000 円とのことです。

中島無線が發表した P-103B 型ポータブルは小型のスマートなパーソナルとして適當なものです。外觀は RCA ビクターに似ておりドア・スイッチ付きです。球は 1R5-1T4-1S5-3S4 の標準型です。

さて街の批評はいろいろで、一方でメーカー製品でなければ長もちしない、部品の経年變化のために音質、音質ともに變つてしまつて使いものにならない、と言う聲があるかと思えば、他方ではメーカー物でも穴したことはない、みんな同じよりに故障してダメだ、と諸説芬々である。いずれが當を得ているかは目に物を見せてもらつてからのことにして、われわれは嚴重にメーカーさんの腕前を拜見しようではないか。

〔以上〕



〔右〕日本ビクター
スーパー・ニッパ